

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

学校名【福島市立荒井小学校】

1 実践テーマ	IV・V
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生 163名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (生活科 体育科 総合的な学習) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (道で咲かせよう東北の花プロジェクト) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	スポーツに対する興味関心を高め、スポーツを楽しむ心を育成するとともに、目標に向かって自己実現していく取組を意識できるようにする。また、多様な人々や文化を受け入れ、互いに理解し合える共生社会について学ぶ機会とする。
5 取組内容	◇ 活動Ⅰ「パラリンピックを身近に感じよう」～ボッチャ体験～ (1～4年)  昨年度に引き続き、福島県立大笹生支援学校教諭國分章夫氏を講師に招き、ボッチャ体験教室を実施した。低学年と3年生は、ボッチャ未経験であることから、昨年度同様、簡単なルール説明の後、ボールを投げながらボッチャの楽しさを味わった。4年生は、昨年度の経験を活かし、ボッチャの戦略についてもう少し解説していただき、チームで作戦を立てながら少しレベルの高いボッチャを楽しんだ。体験を通して、パラスポーツの奥深さを感じ取っていた。

◇活動Ⅱ「パラリンピックを身近に感じよう」～車いすバスケットボール体験～（５・６年）



日本に９人しかいない車椅子バスケットボール国際審判員の資格を持つ福島県立大笹生支援学校教諭二階堂俊介さんを講師に、車椅子バスケットボールの体験教室を実施した。先生からは、オリンピックやパラリンピックが多くの人たちの力で運営されていることや、国際審判員として笛を吹くとき意識していることなど、大きな組織の中や世界でいかに自分の力を発揮するか、日本人として、世界に出て行くときどんなことを意識すべきかなど、社会人や国際人としてのあり方についてもお話しいただいた。また、実際に車いすを操作したり、ボールを使ってリレーをしたりした。子供たちは、パラリンピックで活躍する選手の運動能力の高さや残された体の機能を極限まで高めようとする選手の意思の強さを垣間見ることができた。

◇活動Ⅲ「オリンピックトーチ巡回展示」（全校生）



オリンピックトーチ巡回展示を行った。

聖火リレーが行われている中での展示で、子供たちも感慨深げだった。

◇活動Ⅳ「道で咲かせよう東北の花プロジェクト～復興五輪版～」



福島県県北建設事務所の主催で花いっぱい運動の種まき作業を行った。県都市公園緑化推進協会の方々にお手伝いいただきながらマリーゴールドの種を育苗ポットに蒔いた。学校で育苗した後、野球とソフトボールの会場となった県営あづま球場近くの花壇に移植した。おもてなしの心で会場周辺の環境づくりをすることで、機運醸成を図ることができた。

6 主な成果	オリンピック・パラリンピック教育事業推進校として取り組ま せていただいたことで、児童及び職員のオリンピック・パラリン ピックに対する意識が高まった。特に今年度は、昨年度の実践や 今重要視されているSDGsにある、「多様性と包摂性のある社 会の実現」を念頭に、これからの共生社会に生きる子供たちにと って、多様な他者の存在に気づき、理解を深めることが出来る力 を育成する上で、障害者スポーツを体験することは大変有意義で あると考え、パラスポーツに焦点を当て、実践した。 目標に向かって粘り強く取り組む人の姿。生まれた国や文化、 身体的な違いを持つ多様な人がいる社会。その中で自分の持てる 力を伸ばし、発揮している人々の姿。世界的な一大イベントの成 功に向け、持てる力を活かして支え合う人々の姿。 東京2020オリンピック、パラリンピックは、それらを間近 に見て、感じる事が出来た数少ない機会であった。 今後は、この事業を通して学んだことをもとに、教育課程を見 直し、活動そのものとして継続していくもの、その精神を活かし て改善していくものを整理し、教育活動に反映させていきたい。
7実践において 工夫した点 (事業の特色)	・ 児童の発達段階を考えながら、全校生で取り組む活動と低・ 中・高学年別で取り組む活動を分けて実践した。 ・ オリンピック・パラリンピックの野球・ソフトボール会場で あるあづま球場がすぐ近くにあることから、地域全体で機運 を盛り上げるために、地域団体との連携を図った活動を取り 入れた。 ・ 福島との関わりを大切にして講師や内容を選定した。 ・ 昨年度の実践の成果を踏まえるとともに、子供たちに育みた い力を明確にして活動を選定した。
8主な課題等	・ オリンピック・パラリンピック教育と教科、領域の学習内容 の関連を図るための教育課程への位置付けや指導計画の作成 ・ オリンピック・パラリンピック教育を進めるための校内組織 と地域連携の在り方 ・ 外部講師招聘についてのコーディネート
9来年度以降の 実施予定	・ 今年度までの継続した取組と充実発展させた取組 ・ 開催した業績や育んだ精神を後に生かす取組